

特別区区割り (4区案)

大阪維新の会
令和8年8月7日

4 区案選定の経緯及びその区数・区割りの特徴

◆区割り選定の経緯

大阪維新の会において、法定協議会内での議論に加え、党内での意見交換会や大阪市内選出議員会議を重ね、副首都・大阪にふさわしい特別区の区割りとはどうあるべきかの議論を積み重ねてきたところ。党所属の大阪市内選出議員（大阪市会議員・大阪府議会議員・国会議員）全員から、区数・区割りに関する意見を聴取し、最適な区数・区割り案の選定を行ってきた。

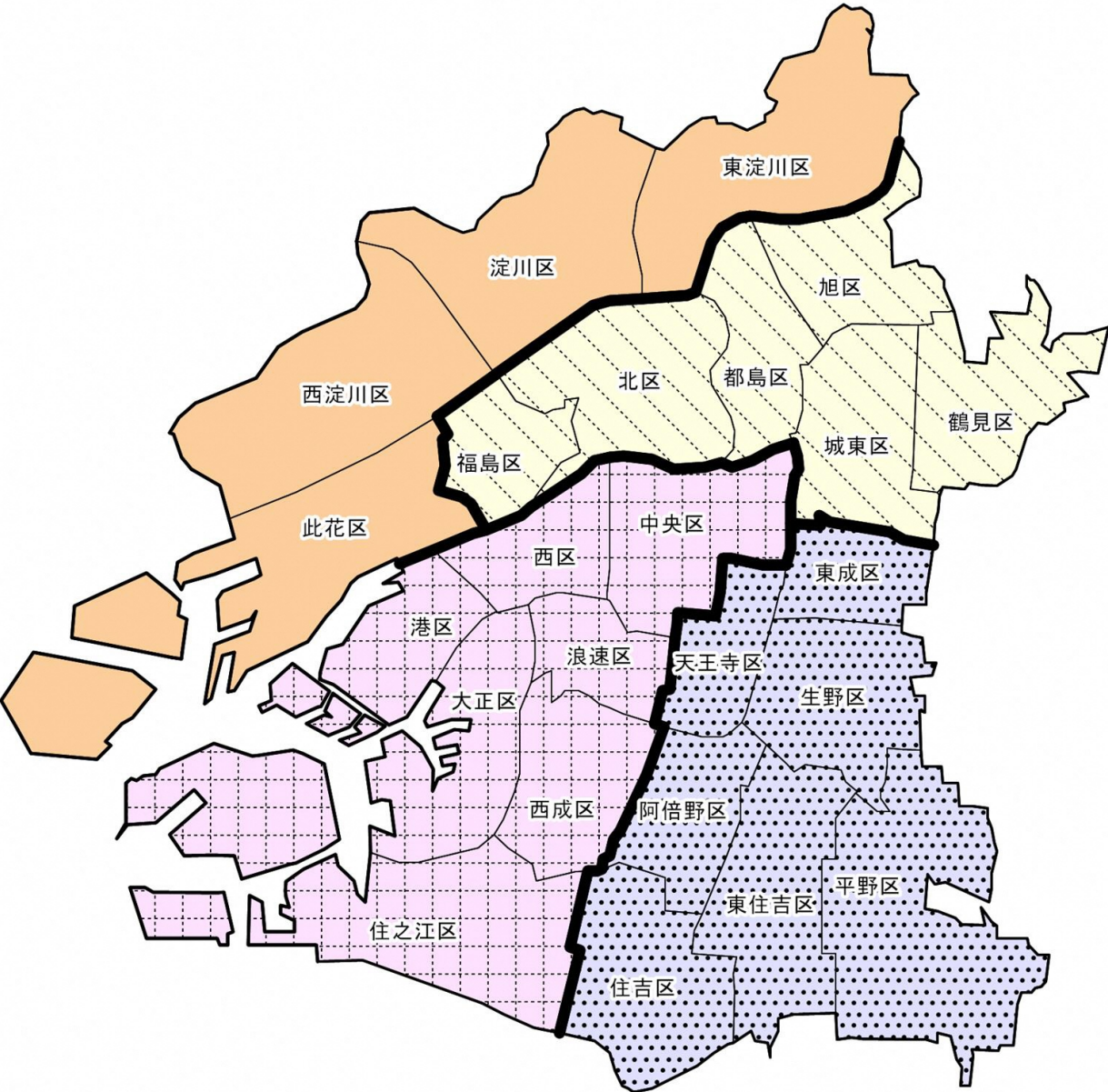
併せて、党HP内の大阪都構想特設ページにおいて、広く意見を募り、議員内でもこれらの意見を共有するとともに、世論調査の実施、市長による区長会や市役所及び府庁職員への意見聴取も踏まえ、総合的に判断を行った。

◆4区案の考え方及びその特徴

各特別区における人口や財政の均衡化を図り、過去の合区・分区の歴史的な経緯も踏まえ、地域において築いてきたコミュニティを考慮して策定した。その特徴は、特別区間の人口や財政の格差が生じにくく、財政シミュレーション上も安定している点にある。スケールメリット生かすことで大きな財政基盤を持ち、広域行政を大阪府に一元化するとともに、基礎行政は現在の大阪市と同等の事務を担うことが十分に可能であり、住民サービスの維持・向上させていく上で最適であると認識している。また、各区に経済や交通の拠点（ターミナル）が存在しており、各区の発展・成長の余地も大きく、個性ある独自のまちづくり、子育て・教育環境、福祉の充実等が期待できる。さらに、再編に伴う庁舎の確保や職員数の増加等に伴うコスト増も抑えることが出来る。

また、前回の住民投票（2020）と同じ4区案との指摘があるが、前回の4区案も法定協議会において、各党各会派の議員間での議論を重ねて決定されたものであり、今回の区割りは、その案から、更に市民の声や地域特性に配慮して、3つの行政区（港区、住吉区、東成区）の区割りを変更している。

◆ 4 区案



区名	面積 【km ² 】	人口 (R7.10.1現在) 【人】	2050年 将来推計人口 【人】	純付加価値額 【百万円】
東淀川区	13.27	178,007	150,596	519,739
淀川区	12.64	190,163	172,288	1,099,250
西淀川区	14.21	97,178	80,932	403,468
此花区	19.30	62,323	56,831	174,519
第1区 計	59.42	527,671	460,647	2,196,976
旭区	6.32	90,745	75,471	142,570
都島区	6.08	110,124	102,198	319,181
鶴見区	8.17	109,900	101,797	170,454
城東区	8.38	169,504	157,480	236,407
北区	10.34	149,620	151,919	5,116,529
福島区	4.67	84,223	86,178	313,199
第2区 計	43.96	714,116	675,043	6,298,340
中央区	8.87	119,350	113,063	5,917,572
西区	5.21	115,449	117,219	1,369,779
港区	7.86	80,734	68,567	215,908
浪速区	4.39	87,409	75,480	598,669
大正区	9.43	60,125	38,958	114,121
西成区	7.37	105,419	67,565	133,589
住之江区	20.68	115,287	85,058	288,389
第3区 計	63.81	683,773	565,910	8,638,027
東成区	4.54	89,429	77,833	211,771
天王寺区	4.84	87,782	87,094	394,451
生野区	8.37	128,673	95,212	199,296
阿倍野区	5.98	112,456	101,564	224,045
東住吉区	9.75	131,606	104,546	160,193
住吉区	9.40	150,459	123,193	134,619
平野区	15.28	182,659	139,143	225,377
第4区 計	58.16	883,064	728,585	1,549,752
第3区/第2区		第4区/第1区	第4区/第1区	第3区/第4区
1.45		1.67	1.58	5.57